



シンボル・マーク

子と親・幼稚園が
ともに手をとりあっ
て未来への飛躍を願
うもので、親と幼稚
園が子どもを育む姿
を岩手の「い」に象徴
している。

広報岩私幼連

VOL

121

(題字は工藤巖元岩手県知事)



「すごいなあ！むしの先生！」

親子自然観察会の一コマより

多事多難の時代に向けて



一般社団法人 岩手県私立幼稚園・
認定こども園連合会
会長 今西 界雄

いまだ止まるとは思えない少子化は、今年はいよいよ出生数が70万人を割り込むのではないかと予想されています。これは取りも直さず園児募集に直接影響を及ぼすものであることは言を待ちません。

私どもの保育業界は、園児減だけに止まらず幼稚園教諭や保育士の人手不足が、大きな課題として現前しています。少子化と人手不足の問題は、避けて通ることが出来ない案件であり、園の存続を持続可能にするためには、行政や養成校と一丸となって早急に取り組まなければならない重要施策であると考えます。また、人材育成においても、今までの育成経験が通用しない若者が増えてきているという情報が各種業界から聞こえてきているのは私だけではないように感じています。今の若者の特徴として挙げられているのは、忍耐力・自制心・グリット(やり抜く力)の三つの能力が弱い傾向にある代表的なものであると言えます。嫌な事や自分の価値観と違う事象に出会うと我慢できず、自分の感情をコントロール出来ずに休職や退職につながる事になりかねません。また、大都市への中央志向の傾向も強くなってきており、地元への就職を希望する新卒者が減少して

いることも昨今の特徴といえます。若者であれば、一度は都会の生活を謳歌してみたいという気持ちも理解できるのですが、それ以上に地元で就職してもらえるようなSNS等を活用して地元の魅力を発信するなど処遇改善や園の魅力づくりに努める必要があると考えます。

今後の園運営について

また、世の中の子育て事情が変化していく中で、保護者が乳幼児施設に対して何を求めているのかを敏感に反応していく事も大切な要件になるものの、本来の乳幼児教育の本質を見失うことなく適切な対応が求められます。そのような意味では、今までとは異なる視点が必要になってくるのかもしれませんが。

さらに、年々支援が必要な子どもも増えてきており、人手不足が園の運営自体に難しさを感じます。また、「こどもが誰でも通園制度」等に見られるように国からの実施要件が増えている事も併せて考えてみると今までの園運営そのものを根本的に見直さなければならぬ時期に来ているのかもしれませんが。例えば、行事の簡略化や廃止等、職員の業務軽減を視野に入れた運営体制を一考する事もあり得るのではないのでしょうか。いかにして教職員の業務を軽減していくのかは、それぞれの学園の創意工夫によるものでありますが、ICTの活用や様々なツールを横断的に活用していく事も大切であります。

地区再編について

予てからの懸案事項であります。今後、岩手県連の地区再編が必要であると考えています。現在それぞれの地区の構成園数は、県北地区が3園、中部地区が17園、県南地区が14園、沿

岸地区が9園、盛岡地区が32園となっています。特に県北地区は、加盟園数が少なく地区会の運営自体が、思うに任せない状況になってから久しく、過去に地区会編成についての要望がなされたこともありましたが、しかし、前回はそれぞれの地区の事情があり再編の実現には至りませんでした。しかし、ここに来て岩手県連全体を考えた時、県北地区を現状のままにしておくことは、決して健全な県連のあり方ではないと考えます。前回の検討事項を踏まえて、どのようなあり方が岩手県連を活性化することにつながっていくのかを俯瞰的に見ていく必要があるのではないのでしょうか。そのためには、様々な地区の事情を見直して再構築をしていくことが必然的に出てくるものと思われれます。地区の研修の持ち方や自治体への要望等手間のかかる問題も出てくることでしょう。そのような様々な諸問題を乗り越えずしては、地区の再編は実現することはありません。世の中がめまぐるしく変化していく中で、変化を嫌う体質は、次代を担っていく組織として進化が出来ないばかりか、時代に取り残されてしまうことにはなりはしないのでしょうか。自園の組織運営もそうであります。様々な組織改革や事業が提案されていく中、変化に対応出来る体質づくりが求められており、自らが変化に対応出来る体質づくりに取り組めた組織のみが持続出来る存在となっていくのだと思います。県連合会の活動が、より活性化され有意義で継続性のある事業展開につながるように心より願うものであり、重ねて会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

◎岩手県ふるさと振興部学事振興課の紹介

～本県の私立幼稚園教育の
良好な環境づくりに向けて～



岩手県ふるさと振興部学事振興課
総括課長 安齊 和男

皆様におかれましては、日頃から本県の幼児教育の振興に御尽力いただいておりますことに対し、深く敬意を表します。

近年、子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化している中、国においては、「こども大綱」を令和5年12月に閣議決定し、「こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じた支援」など6つの基本方針に基づき、こども政策を総合的に推進していくこととされたところです。

当課では、「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプランに掲げる「多様なニーズに応じた特色ある私学教育の充実」のため、引き続き、私立幼稚園の運営費補助をはじめ、次世代を担う人材育成の取組など各園の創意工夫を生かした取組に対する補助等により、私立幼稚園における良好な教育環境づくりに取り組んでいるところで

す。皆様におかれましても、豊かな心と体を育む幼稚園教育の推進と発展のため、一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年度学事振興課事務分担表

※幼稚園関係のみ抜粋

私学振興担当	事務分担	担当者
1	私学振興の総括に関する事	私学振興担当課長 高橋 英光
1	私立学校法の改正に関する事	主幹兼特命課長 (特定課題) 立花 紅
2	学校教育法施行細則及び私立学校法施行細則に関する事	
3	私立学校法施行細則関係の届出に関する事	
4	私立学校施設整備費補助金に関する事	
5	私立学校耐震化支援事業費補助に関する事	
6	設備整備費補助金に関する事(ICT、DX関係を除く。)	
7	私立学校審議会に関する事	
8	私立学校の指導に関する事	
9	学校事故報告に関する事	
10	県民からの提言に関する事	
1	私学振興担当事務の総括に関する事	主査(総括) 向井 奈都美
2	私立学校運営費補助(一般補助分)に関する事	
3	私立学校関係予算及び決算に関する事	
4	私学関係団体に関する事(請願・陳情含む。)	
5	私学関係栄典事務及び表彰に関する事	
1	私立学校運営費補助(教育改革推進特別経費)に関する事	主任 山崎 仁嗣
2	学校保健特別対策事業費補助金に関する事	
3	災害復旧費国庫補助・県補助に関する事	
4	県の各種計画との調整等に関する事	
5	学校の安全対策に関する事	
6	災害状況の報告に関する事	
1	私立学校被災児童生徒等就学支援事業に関する事	主 事 吉田 奈未
1	幼稚園設置法人、私立幼稚園、私立小学校及び私立中学校に関する事	主 事 澤田 珠羽
2	私立学校運営費補助(私立幼稚園特別支援教育費補助)に関する事	
3	私立学校運営費補助(幼児特色)に関する事	
4	子ども・子育て支援新制度への移行に関する事	
5	子育てのための施設等利用給付負担金に関する事	
6	私立学校のICT支援及びデジタル人材育成支援に関する事	
7	学校法人及び私立学校に係る調査、統計及び報告に関する事	
8	助成対象法人の事務検査に関する事	
9	学校法人及び私立学校に対する諸通知に関する事	
1	補助金の審査補助に関する事	会計年度任用職員 (就学支援専門員) 藤原 浩子 吉田 恵
2	私立学校式典等へのメッセージの送付に関する事	
1	補助金の審査補助に関する事	会計年度任用職員 伊澤 真美
2	学校法人及び私立学校に対する諸通知の事務補助に関する事	
3	私立学校法の改正に関する事務の補助に関する事	
1	補助金の審査補助に関する事	会計年度任用職員 藤田 奈々
2	諸台帳の整備及び書類の整理に関する事	
3	学校法人及び私立学校に対する諸通知の事務補助に関する事	

◎保健福祉部子ども子育て支援室の紹介

～認定こども園を取り巻く動向について～



岩手県保健福祉部子ども子育て支援室
室長 前川 貴美子

皆様におかれましては、日頃から本県の子ども子育て支援施策の推進に御尽力いただき、改めて感謝申し上げます。

さて、近年、少子化は深刻さを増しており、令和5年の合計特殊出生率は1.20と8年連続で減少しており、本県においては1.16と全国を下回る状

況となっています。

県では、全国トップレベルの子ども・子育て環境の実現を目指し、令和5年度から、市町村と連携し、第2子以降の3歳未満児に対する保育料の無償化を実施しています。

また、令和8年度からは、「乳児等のための支援給付(いわゆる「こども誰でも通園制度」)」の実施が予定されており、子ども子育てを取り巻く環境はますます複雑化しておりますが、当室では、幼児教育・保育の充実をはじめ、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに向けた施策を推進してまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

子ども子育て支援室事務分担表(子育て支援担当)

認定こども園に係るもの(令和6年4月1日～)

事務分担	担当者
子育て支援担当事務の総括に関する事	子育て支援担当課長 才川 拓美
子育て支援担当の総括に関する事	主任主査 目時 麻由
子育て支援担当の関係条例・規則等に関する事	
子ども・子育て支援新制度の総括に関する事	
子ども・子育て支援事業支援計画に関する事	
認定こども園の認可(認定)の総括、指導監査に関する事	
施設型給付費・地域型保育給付費・委託費に関する事	
いわて子育て応援保育料無償化事業に関する事	
施設の災害復旧に関する事	
保育士確保対策に関する事	
保育所及び認定こども園の施設整備に関する事	
児童福祉研修事業(新任保育士、潜在保育士研修)に関する事	主 査 村木 美保
子育て支援員に関する事	
こども誰でも通園制度(仮称)に関する事	
地域子ども・子育て支援事業に関する事	主 事 宮崎 裕平
保育関係表彰に関する事	
保育士のキャリアアップ研修に関する事	主 事 樋沢 有途
保育士及び保育教諭に関する事(試験、登録、養成施設等)	
保育所入所待機児童に関する事	
認定こども園等の環境整備に関する事	
子育てのための施設等利用給付交付金に関する事	



令和6年度 第31回全日本私立幼稚園連合会 東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会(秋田大会)

第31回 東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会は、令和6年6月21日(金)、ANAクラウンプラザホテル秋田を会場に「一人ひとりの子どもが輝く幼児教育の充実・発展を考える」を大会テーマに開催された。

開会行事の後に行われた記念講演は、読売新聞特別編集委員である橋本五郎氏をお迎えし、「日本の進路と幼児教育への期待」の演題での講演が行われた。ご自身が秋田県のご出身であり、またTV情報番組等で既に周知である同氏が登壇すると大きな拍手で迎えられた。

講演では、教育の重要性について、ご両親の教育、ご自身の子育ての方針、大事な師との出会い等々、ご自身のこれまでを振り返り、その中でブレないバックボーンが築かれていった過程をお聴きした。

教育に対する期待することとして、教育とは白いキャンパスに絵を描くことであり、どんな絵ができるか、そこへ導くのが教育の営みではないか。小さいときの教育が大事であり決定的になる。福沢諭吉は2人の息子に日々の教を半紙に書いて渡し、生きていくうえで最も大事なことを伝え続けた。基本的なことをきちんと教えることが教育の営みだと思う、と話された。

また、これまでたくさんの尊敬する方々に会ってきたが、その中から三人について語られた。

始めに、秋田高校時代の鈴木校長先生について。赴任後の生徒に対しての第一声が、「諸君は、汝、なぜそこにありや、と尋ねられた時に、直ちに断言できる人になりなさい」であった。なぜ、お前はそこにいるのか?答えることはなかなか難しい。しかし、今でもその声が聞こえてきて、弁解の余地のないことはできないとブレーキになっている。先生の力は大きいものだと感じている。

次に、東京都済生会中央病院の外科部長の大山先生である。54歳の時に胃がんを発症し、ステージ2~3の癌宣告を受けた。その時、先生に「一日一日を大切にしてください。1年が過ぎたら1年生の終了証を、2年が過ぎたら2年生の終了証を差し上げます。」と言っていただき、「今」を大切にすることを教えていただいた。以来、24年になる。入院生活をする中で物事を見る目が変わっていった。今まで見えなかったものが見えてきたのだと思うが、書く文章も違ってきた。入院中に大切にされたことは、第1にお医者さんを信頼すること、そして一番身近な人を悲しませないこと、不安でいる家族のことを思い、できるだけ



秋田大会

明るくふるまうように努めた。

最後に、母について語った。橋本氏は6人兄弟の末っ子(5男)として生まれた。父親は小学校の校長先生であったが、当時の先生の給料はすくなく、母はよく働く人であった。父が現職の56歳で亡くなった後は、主に保険の外交員として働き6人の子ども達を育ててくれた。

母は人より遅く寝て、誰よりも早く起き、朝の5時半には7つの弁当を作っていた。

大学を卒業し社会人となる時に母から言われた言葉、

- 一：「何事も手を抜いてはいけない。全力で当たれ」
- 二：「傲慢になってはいけない。常に謙虚であれ」
- 三：「どんな人でも嫌にならないこと。その人の中に自分より優れているものを見つけると、嫌いでなくなる」

この三つであった。

よく、「おてんとうさまは、お見通し」というが、母はまさに太陽であった。母に対し、恥ずかしいことはできない。今もこれからも、「母さんに言われたことを守ってきたよ、と言える人生を歩みたい」と語り、講演を締めくくった。

記念講演に引き続き、「教育」と「経営」の2分科会に分かれて、時宜を得た内容での協議と意見交換がなされ、参加者がそれぞれが貴重な情報を共有し、豊かな学びの場となったことを感謝し散会した。

(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会

副会長 坂水かよ)

地区会再編で連合会事業の活性化

総務委員長 島山秀一郎

地区会については、施行規則第3条により地区会、構成市町村、幼稚園数等を規定しておりますが、現在、県北地区の幼稚園数は、3園、盛岡地区は、32園となっております。地区における幼稚園数の不均衡が生じています。

連合会では、地区毎に地区会長、理事、専門委員、PTA役員を選出するとともに、教員研修大会や振興大会などを持ち回りで開催しているところですが、小規模の地区にあっては、決められたルール通りに進めることが難しい状況となっております。

つきましては、今後の連合会事業の活性化を図るため、地区会再編について検討する「地区会再編検討委員会」を設置し現在の地区会の課題、再編の方向性、再編スケジュール、再編案を検討しています。特に該当する盛岡地区や県北地区の皆様と十分な話し合いをしながら、地区会再編のメリット・デメリットを洗い出しデメリット対応策を考えながら進めて参ります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

こどもの育ちを支えるために できることは

政策委員長 三ノ宮 治

最近発表された、厚労省の人口動態統計では令和5年の出生数は73万人以下となり、今年5月までの速報でも昨年を下回り、急速な少子化に向かっています。

政府もあわてて児童手当等の拡充を急いでいるようですが、この傾向はしばらく続くようです。昨年12月こども家庭庁は「はじめの100か月の育ちビジョン」を発表いたしました。「こどもの誕生前から幼児期の育ち」を支える全ての人を支援し、こども施策を強力に推進するという内容です。地方公共団体は国と連携しこどもの状況に応じた施策を策定し、実施する責務を有するとあります。今後、市町村の教育・保育施設への助成等の調査を昨年に引き続き行い、子どもの育ちを保證できる環境づくりについて、自治体への働きかけや協力が必要となると考えています。各委員会の報告、地区会の実践・研究を紹介しながら「広報岩私幼連」「イワシヨウジャーナル」を通して発信して行きます。なお、PTA連合会では盛岡地区において、「第27回岩手県私立幼稚園・認定こども園振興大会」を開催する予定です。

各園の資質向上につながる研修を目指して

教育研究委員長 坂水 かよ

2024年度・2025年度の2年間、『一人ひとりの「こどもがまんなか」をまもる 質の高い幼児教育を』～社会全体でつむぎ未来へつなぐために～』のテーマのもと各研修会が開催されます。なぜこのテーマができたのか、何を学んでいくのか、ただの看板としてではなくそれぞれが理解を深めるために、ぜひ全日本私立幼稚園教育研究機構ホームページで「教育研究課題」を検索し、一読いただきますようお願いいたします。また、より広く研修履歴が積み重ねられるように、研修俯瞰図も改定されましたので、併せてお目通しいただければ幸いです。

さて、今年度の教研委員会では、次の3つに積極的に取り組んでいきます。一つは、平成30年度から積み重ねてきた分野別キャリアアップ研修です。既に15時間を修了する先生方も多くなってきました。二つ目に、今年度3園で実施を予定している「ECEQ公開保育」と「ECEQコーディネーターの養成」です。三つ目として幼保小連携が一步進んでいくために、「架け橋期を考える」研修の取り組みです。委員会ではこれらの学びが深められ積み重ねられて、各園の資質向上に繋がっていくよう心して企画実施していきたいと願っています。

園運営に資する情報提供を目指して

経営研究委員長 佐々木 栄光

幼児教育・保育を取り巻く環境は、予想を超える少子化の進展を背景に国の異次元の少子化対策による制度新設を伴って大きく変化しています。令和5年12月22日閣議決定された「こども未来戦略」に位置づけられた「こども・子育て支援加速化プラン」パッケージでは、本年度より施行される4、5歳児の職員配置基準の改善見直し（次年度以降1歳児に着手）、令和7年度実施に向けた経営情報の継続的な見える化（ここdeサーチによる経営情報公開）、令和8年度に法制化の下全国展開されるこども誰でも通園制度、民間賃金格差を踏まえた更なる処遇改善、また、文部科学省マターで現在進行中の改正私立学校法にかかる法人寄附行為の改定事務等、今後も多くの課題対応が求められるものと思われま

す。当経営研究委員会では、今年度も引き続き8月の第1回経営セミナー及び年明け1月の第2回経営セミナーを通じて、キャリアアップ研修（マネジメント分野）の実施を中心に、時節の課題に応じたテーマを取り上げて、それぞれの園運営に資する情報提供を行っていきたいと考えています。

地区会だより

県北 「変化の時こそ子どもの育ちを豊かなものに」

目まぐるしく変容する世界情勢と、それに呼応するかのよう国内および県内各方面にも小さくはない影響の波が押し寄せている昨今、当地区においても例外にもれずさまざまな課題が山積している状況です。

新しい時代の変化、その動向をよく注視していきつつ今後計画、予定がされている制度改正等の変更にも柔軟に対応していくと同時に、これまで連続と培われてきた教育・保育を切れ目なく提供できるよう、家庭、地域とより連携を深めながらよりよい充実を図り、園児それぞれの豊かな発育発達に資する取り組みを継続してすすめていきたいと考えています。

子どもの成長が著しく感じられる季節、夏。記録的な暑さにも負けず、各園では意欲的に多くの経験や体験を経て育まれる力がつく保育を計画し、取り組んでいます。

(まつのまるこども園 園長 國分 大輔)



ブルーベリー摘み取り体験に出かけました。
「うんめえ〜よ!」

盛岡 「振興大会の準備も始まりました」



振興大会講師の澤口たまみ先生

今年度の盛岡地区会は、1「多様な子どもの受容とクラスの育ちを考える」、2「子どもの心を聴く」、3「遊びの意味と育ちへのつながり」、4「協同的な遊びと学びの実践」、5「子どもと共に作り出す環境構成」、6「3歳未満児の生活と保育環境」の6つ教員ブロック研修に取り組んでいます。今年度は2年目なので、現在はまとめの時期に入っています。

また、8月22日に地区会設置者・園長会例会が行われ、子どもの安全をテーマに、岩手県盛岡東警察署生活安全課の方にご講話を頂きました。

今年度の岩手県私立幼稚園・認定こども園振興大会は盛岡地区が担当になりましたので、盛岡地区PTA連合会と一緒に準備を進めています。会場はキャラホール、記念講演講師は澤口たまみ先生（エッセイスト・絵本作家）をお願いをしています。ぜひご参加ください。

(仙北町幼稚園 園長 根内 純)

中部 「『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育をめざして」

中部地区はウェルビーイング「こどもがまんなか」をまもる質の高い幼児教育をめざし、教員研修会を、花巻地区年3回、北上地区年3回の計6回計画しております。

花巻地区では、4月の総会に合わせ、岩手県立療育センター相談支部高橋早矢香先生に「気になる子のそだちを支えるために」と題し、講演していただきました。「対処」や「指導」よりも「なぜ?」と一人ひとりを理解することの大切さや、保護者と気づきを共有し、共有を継続することで協力関係を築くことの大切さについて学びました。8月にマネジメントと障害児保育分野で、また2月は3回目の研修会を予定しております。

北上地区は、8月障害児保育分野、1月幼児教育分野、3月虐待について研修会を行う予定です。

「質の高い教育・保育の実践」をめざし、保育活動の質が高められ、一層充実するための研修を積み重ねていこうと思います。

(花巻ささま幼稚園 副園長 小原 理美)



8月に行われた中部地区研修会の様子

県南 「改めて感じた研究会の大切さ」



今年度のブロック研究会の様子

県南地区一関支部では、以前は各園持ち回りで研究会を開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症対策として、令和5年度まで園ごとにテーマを決めて研究を行ってきました。今まで研究会が当たり前だった私たちには、園毎の研究は新鮮でもあり、戸惑いもありました。模索していく中で、園の課題に即した実践的な研究を行うことができました。

今年度からはコロナ過以前の研究会に戻る形で開催されています。久しぶりの研究会では、昔話に花を咲かせながら、また、新しい新任の先生方の刺激をいただきながら、気持ちを新たに研究に取り組んでいます。

研究2年目には、研究収録「すかわ」にそれぞれのグループ研究をまとめ、全園で共有し学ぶ機会があります。他園の先生方との交流を大切にしながら、研究を通して保育の質を高められるように取り組んでいきたいと考えています。

(認定こども園一関幼稚園 保育教諭 尾形 考野)

沿岸 「情報交換会を行いました」

沿岸地区では今年度も大槌・釜石・遠野ブロック、宮古・山田ブロックともに各園で研究を進めていますが、各園の先生との交流が少なくなったことに寂しさを感じていました。そこで今年度宮古・山田ブロックでは先生たちが学年ごとに集まり交流会を行うことにしました。3回目の7月10日には宮古泉幼稚園に3歳児の担当6名が集まり、皆で楽しく情報交換をしました。8月に行われる沿岸地区の夏季研修会では大槌・釜石・遠野ブロック、宮古・山田ブロックの先生たちが集まり研修と昼食を食べながらの情報交換を行います。ここ数年顔を合わせる機会が減っていましたが、直接話をする事で刺激を受けながらお互いを高め合っていければと思います。

(認定こども園宮古泉幼稚園 園長 井川由貴子)



交流を深めました

岩私幼連の年間行事

○政策委員会

事業名	期 日	開 催 地
第27回岩手県私立幼稚園・認定こども園振興大会	R 6.10.23 (水)	キャラホール

○教育研究委員会

事業名	期 日	開 催 地
第1回新任教諭研修会	R 6. 6. 1 (土)	盛岡市総合福祉センター
第2回新任教諭研修会	R 6. 6.15 (土)	北上市/さくらホール
第3回新任教諭研修会	R 6. 6.29 (土)	一関文化センター
第4回新任教諭研修会	R 6. 7.13 (土)	盛岡市/アイーナ
第1回教員研修会	R 6. 7.27 (土)	盛岡市総合福祉センター
総合研修会・第2回教員研修会	R 7. 1. 9 (木)～10 (金)	花巻市/ホテル千秋閣
第40回教員研修大会 (盛岡大会)	R 7. 3.25 (火)	盛岡市/アイーナ

○経営研究委員会

事業名	期 日	開 催 地
第1回経営セミナー	R 6. 8.27 (火)	ホテルメトロポリタン盛岡
総合研修会・第2回経営セミナー	R 7. 1. 9 (木)～10 (金)	花巻市/ホテル千秋閣

○全日私幼連東北地区会

事業名	期 日	開 催 地
第31回東北地区設置者・園長研修会	R 6. 6.21 (金)	秋田県秋田市
第38回東北地区教員研修会 (宮城大会)	R 6.10.18 (金)	宮城県仙台市・加美町・大崎市
第39回全日私幼連設置者・園長研修会	R 6.10.28 (月)～29 (火)	奈良県

○(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

事業名	期 日	開 催 地
第15回幼児教育実践学会	R 6. 8.23 (金)～24 (土)	東京都大妻女子大学

○岩手県教育委員会

事業名	期 日	開 催 地
岩手県幼児教育研究協議会	R 6. 8. 9 (金)	岩手県立生涯学習推進センター
岩手県教育研究発表会	R 7. 2. 5 (水)～7 (金)	岩手県立総合教育センターほか



新会員紹介

幼保連携型認定こども園南城保育園

園長 伊藤絵里子

初めまして、学校法人豊水久田野学園幼保連携型認定こども園南城保育園（通称南城こども園）です。南城こども園は花巻の南に位置する南城学区の桜町という所にあります。桜町には宮沢賢治さんゆかりの地が多く、賢治詩碑や「下の畑にあります」の立札や賢治さんが使っていた井戸跡、現在は花巻農業高校に移築された羅須地人協会がありました。（故照井謹二郎前理事長は賢治先生の教え子でした）毎年賢治詩碑へ向かう賢治ロードに花南地区コミュニティ会議の方々と一緒に花苗を植え、全国からおいでになる賢治ファンのみなさんへのおもてなしのお手伝いをしています。地域の方々と触れ合い、賢治さんを身近に感じられる行事の一つです。

また、南城学区にある5つの園との交流会（5歳児）を行っています。同年齢の子ども達の交流に加え、他園の職員との交流は良い学びの場となっています。今年度より南城小学校の先生方も加わり相互理解しやすい環境

に近づきました。小学生が町探検に來たり、中学生が職場体験や家庭科の授業で訪問してくれたり、小中学生との交流の機会は卒園児との再会とこどもまんなか社会のつくり手を育む大切な場の提供と思っています。

地域との繋がりを大切に園児一人ひとりに寄り添い、自発性を受け止め、のびるときにのびるものをのびのびと伸ばす教育保育理念のもと過ごしています。どうぞよろしくお願いいたします。



岩手保健医療大学附属北上認定こども園

園長 熊谷サオリ

本園は北上駅西口から徒歩1分という駅前に位置し、1階に定員102名の認定こども園と系列法人の北上駅前病院、2・3階に病棟、4・5階にリハビリパーク北上が入居する東北でも珍しい複合施設です。

適切・安全な環境の下、遊びや生活を通して子どもの自主性や思考力を伸ばすという事を、教育・保育方針とし、保育の一環として体操・ダンス・英語やスイミングに取り組んでいます。毎週金曜日には、3・4・5歳児が近くのスイミングクラブで約1時間のレッスンをします。怪我のリスクが少なく免疫力がつき、脳の発達や体力強化に繋がることから保護者の皆様からの期待も大きく、子ども達もプールが大好きでレッスンを楽しみにしています。今ではビートバンに掴まって25mを往復するほどです。又、駅東口に出ると北上川堤防は、桜で有名な展勝地の風景を楽しむ事ができ、山や川の自然を身近に感じられる散歩コースです。

4月に開園し行事の経験はまだ少ないですが、園児の発達にとって必要な様々な体験を見通しながら、自ら

やってみようと挑戦できる環境を大切にしていきたいと思っています。

現在は、8月3日の北上芸能祭りに向けてお神輿作りに取り組んでいます。駅前の複合施設というメリットを活かして、地域行事に参加したり施設のお年寄りの方々と交流を通して、優しい子ども達に育てて欲しいと願っております。



●編集後記

一年の中で一番長く、様々な活動や行事によって園児の成長する姿を何度も目の当たりにする2学期がいよいよ始まりました。子どもたちの笑顔や、真剣なまなざしに出会う瞬間が今から楽しみで仕方ありません。特に行事においては、当日までの過程の中に練り広げられるドラマに涙が溢れることもあります。1学期の最後には、たちの悪い夏風邪・胃腸炎・手足口病が流行り、コロナも第11波と言われましたが、手洗い・うがい・換気を確実にしながら感染症に負けないで過ごしたいものです。

各法人では、私立学校法の改正に伴う寄附行為の変更についての事務作業が山場を迎えておられることでしょうか。お恥ずかしい話なのですが、本法人では私の思い込みと勘違いから変更内容が白紙に戻り、一時はどうなることかと冷や汗をかきました。新たな寄附行為によって、社会的に受け入れられる法人であることを示せるよう、引き続き真摯に取り組んでいきたいと思っています。

（政策委員 曾根 美砂）